

公益財団法人 高知県文教協会

機関誌 『文教高知』 100号到達への軌跡

1984年の創刊から2027年の100号到達予定まで、40年以上にわたり高知の教育知を記録し続けてきた歩みを、4つの時代区分から紐解きます。

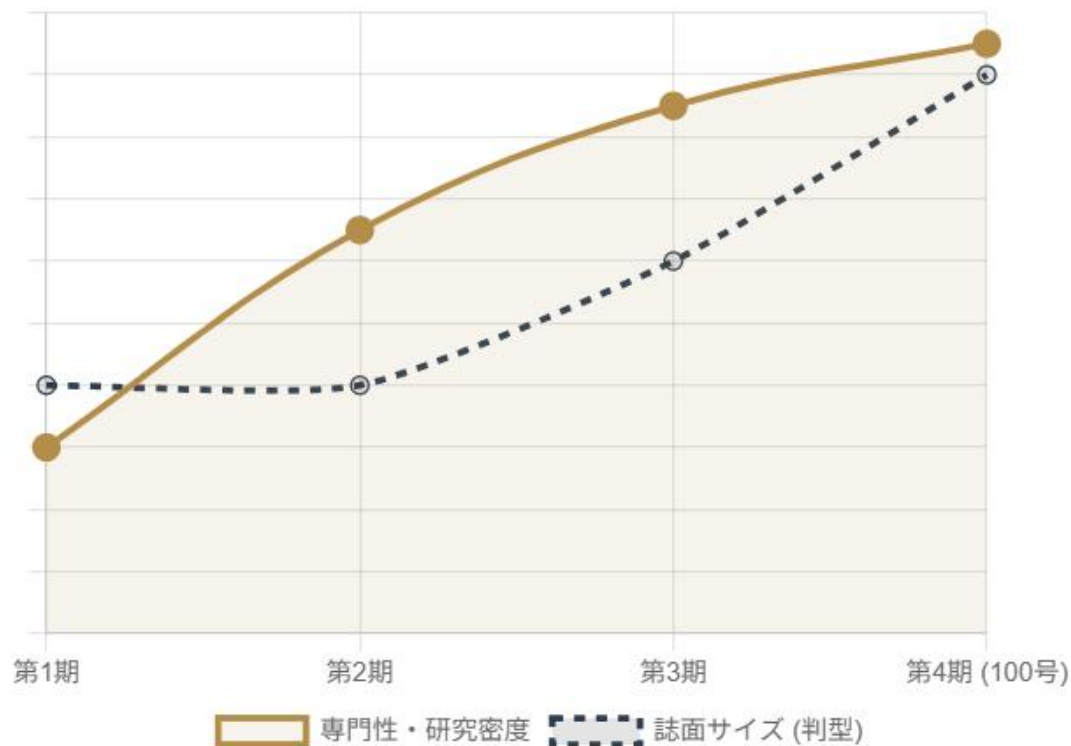
創刊：昭和59年

100号到達：令和9年6月（予定）

『文教高知』の変容をデータで見る

物理的仕様の変化は、提供する情報の密度と役割の変化を反映しています。

判型の大型化と情報密度



※横軸は時代区分。縦軸は相対的な誌面サイズと専門性の深度を指数化。

40
年

継続的な発行サイクル

毎年2回（6月・12月）の安定的刊行を40年以上継続。高知県内でも稀な教育専門の言説空間です。

A5→B5

物理的拡張

21cm判から26cm判（大判）への移行により、視覚的な授業改善案や詳細なデータ掲載が可能になりました。

100
号

知のアーカイブ

全100号の蓄積は、戦後高知の教育社会史を立体的に示す貴重な知的資源となっています。

4つの時代区分エクスプローラー

各区分を選択すると、その時代の誌面特性、編集方針、背景となる教育動向が切り替わります。

第1期
文化啓発・広報期
1号～30号

第2期
教育改革・実践期
31号～60号

第3期
公益化・還元期
61号～80号

第4期
経営・多機能期
81号～100号

PERIOD 1 文化啓発と広報基盤の形成期

創刊当初は、会員相互の連帯と文化発信・出版能力を背景に、地域社会の知的要求に応えるメディアとしての性格が強い時代。

重点テーマ

- エッセイ・郷土文化考察
- 文教活動の広報案内
- 会員間のネットワーク形成

主な動向

- 寺田寅彦記念賞 創設
- 歴史資料館の委託管理開始

仕様・体制

判型

21cm判

主な編集・指導者

西本 澄雄

時代背景

昭和59年～平成6年頃

土佐の「知的循環システム」としての機能

『文教高知』は、行政ニーズ、協会の助成事業、そして現場の実践報告を一つに繋ぎ、地域教育の質を高めるハブとして機能しています。

1

顕彰・助成事業

坂本教育賞、研究・研修助成。優れた実践と研究に資金を提供。

2

機関誌『文教高知』

成果の義務的掲載。全県レベルでの知見共有とアーカイブ化。

3

現場への還元

他校の教職員が自校の経営や指導に活用。新たな教育改革の種へ。

「坂本教育賞受賞校の実践を誌面で特集することで、土佐のユニークな教育環境を自律的に維持・醸成しています」

100号記念特集：4つの戦略的アプローチ

調査報告に基づき、100号という節目を最高峰の総括資料にするための具体的提案です。

● ビジュアル・クロニクル

1号から100号までの表紙・目次を網羅。高知の戦後教育史タイムライン（土佐の教育改革等）と並列させ、行政転換と現場の因果関係を可視化します。

● 教育情報デザインの進化

21cm判から26cm判への変更、フォント選定、図版の挿入手法など、物理的仕様の変遷を「教育情報の伝達技術の進化」として捉え直すグラビア企画。

● 持続可能な支援の追跡調査

過去の坂本教育賞受賞校（野市中、大方中等）を再訪。当時の研究が現在いかに継承されているかを検証し、協会の存在証明を鮮明にします。

● 未来志向のリーダーシップ鼎談

歴代編集委員によるシンポジウム。「学校経営」や「教育DX」を見据え、次の100号に向けたミドルリーダーへの指針をマニフェストとして提示します。

土佐の「教える力」を未来へつなぐ

100号はゴールではなく、開かれた知のパブリック・コモンズへの新たなスタートです。
蓄積された知見は、デジタルアーカイブ化を通じてさらなる広がりを目指します。